

特別支援教育課通信 北山の陽だまり

平成30年2月発行 (第34号)



【膨らんできた桜のつぼみ】

朝晩はまだまだ寒いですが、日中の日差しは春の温もりを感じる季節となりました。研修センターにある紅白の梅の花は満開となり、桜やけやきなどの木々もつぼみを膨らませてきました。

さて、各学校では、学年末のまとめの時期となりました。一年間の児童生徒の成長を振り返りながら、学習の定着を図ったり、評価したり、補充学習をしたりと、次学年への進級に向けた指導・支援に力を注がれていることと存じます。研修センターにおいても、本年度の事業の振り返りをするとともに、次年度の講座準備に取り組んでいるところです。



【力作ぞろいのギャラリー】

研修センターでは、特別支援学校の児童生徒による絵画等の作品を3階大会議室前に掲示しています。今回は、11校から出品していただきました。ほのぼのするもの、緻密に時間をかけて作り上げたものなど、力作ぞろいです。研修等でおいでの際は、是非ご覧になってください。

特別支援教育課長

【不登校を考える】

研修センター特別支援教育課では、「発達が気になる子どもの教育相談」を行っています。その中で、不登校に関する相談も多くあり、どうすれば解決に導けるかと悩みます。文部科学省の平成29年度調査によると、茨城県内で児童生徒1000人当たり、小学生で5.0人、中学生で30.2人が、年間30日以上欠席しているとの報告があります。原因は様々ですが、不登校になる児童生徒とならない児童生徒は、何が違うのでしょうか？

数ある不登校関係の書籍の中で、私自身がずっと納得できた本を紹介させていただきます。「**不登校から抜け出すたった1つの方法**」**菜花俊 著**（青春出版社）です。著者ご自身が不登校を体験し、母親から厳しいしつけを受けながらも「登校できない自分が悪い」と責め続けます。学校に行きたくてもいけない苦しさや悩みについて、そして、登校するために何が必要かを当事者の視点、保護者の視点で教えてくれています。

著者は、不登校になる子とならない子の大きな違いは、「自己肯定感が高いか低いかである」と言っています。自己肯定感が高ければ、不安や恐れを打ち消すエネルギーが高いために、些細なことではくじけないということのようです。先生方も参考になると思いますし、不登校や登校渋りで悩んでいる保護者の方にも、是非お勧めしたい一冊です。